

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 17023

建築物名称	(株)ナカトミ川崎営業所兼センター
建築主	株式会社ナカトミ 代表取締役 岡部 健
建築物の所在地	川崎市川崎区大師河原1丁目4990番5
設計者氏名、建築士事務所名	坂東 保則 株式会社川崎設計 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,345.48m ²
用途	倉庫、事務所
構造	鉄骨造
階数	地上4階
工事完了年月	令和元年7月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.1.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)ナカトミ 川崎営業所兼センター	階数	地上4F
建設地	川崎市川崎区 大師河原1丁目4990番5	構造	S造
用途地域	工業地域、(22条区域)	平均居住人員	25 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,016 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	
竣工年	2019年7月 竣工	評価の実施日	2017年9月4日
敷地面積	2,131 m ²	作成者	坂東 保則
建築面積	1,126 m ²	確認日	2017年9月10日
延床面積	3,345 m ²	確認者	坂東 保則

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	86%
③上記+②以外の	86%
④上記+	86%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高スコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	敷地全体に緑地を設け、緑化率を10%確保し、主要道路境界には植栽帯を設けた。景観計画に則した外壁色の計画とする。空地率40%以上とし、隣地境界沿いに植栽帯を設けた。	1.8/4.3	2.1
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標Rwを0.4以上としている。	0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.6
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	全ての屋根を外断熱仕様とした。	0.4/0.7	3.0
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備	ブラインドでグレアを制御		
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	敷地全体に緑地を設け、緑化率を10%確保し、主要道路境界には植栽帯を設けた。空地率40%以上とし、隣地境界沿いに植栽帯を設けた。	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.76	3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギーの利用	BEI=0.75		
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水型器具・擬音装置・自動水栓の採用。	3.1/4.7	3.3
2 非再生性資源の使用量削減	再生骨材地業利用		
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標Rwを0.4以上としている。	0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	給水・排水管はB以上を採用した。	0.3/0.5	2.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水型器具・擬音装置・自動水栓の採用。	2.7/4.0	3.3
2 非再生性資源の使用量削減	再生骨材地業利用		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	管理用車両、荷捌き用駐車施設の確保。	0.3/0.4	3.9
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.2
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	敷地全体に緑地を設け、緑化率を10%確保し、主要道路境界には植栽帯を設けた。空地率40%以上とし、隣地境界沿いに植栽帯を設けた。	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.76	3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギーの利用	BEI=0.75		
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標Rwを0.4以上としている。	0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.5**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用	躯体材料におけるリサイクル材の使用	0.7/1.2	3.0
2.3			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.76	3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギーの利用	BEI=0.75		
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.8	
Q1 室内環境							0.32		-	3.0	
1 音環境						3.0	0.15		-	3.0	
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40		-		
1.2 遮音						3.0	0.40		-		
1 開口部遮音性能						3.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能						3.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-		-		
1.3 吸音						3.0	0.20		-		
2 温熱環境						3.0	0.35		-	3.0	
2.1 室温制御						3.0	0.50		-		
1 室温						3.0	0.38		-		
2 外皮性能			W			3.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御						3.0	0.20		-		
2.3 空調方式						3.0	0.30		-		
3 光・視環境						3.3	0.25		-	3.3	
3.1 昼光利用						4.2	0.30		-		
1 昼光率					昼光率4.21%確保	5.0	0.60		-		
2 方位別開口							-		-		
3 昼光利用設備			W			3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策						3.0	0.30		-		
1 昼光制御			W			3.0	1.00		-		
3.3 照度						3.0	0.15		-		
3.4 照明制御						3.0	0.25		-		
4 空気質環境						3.0	0.25		-	3.0	
4.1 発生源対策						3.0	0.50		-		
1 化学汚染物質						3.0	1.00		-		
4.2 換気						3.0	0.30		-		
1 換気量						3.0	0.33		-		
2 自然換気性能						3.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33		-		
4.3 運用管理						3.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御						3.0	0.50		-		

Q2 サービス性能				—	0.30	-	-	3.2	
1 機能性					3.0	0.40		3.0	
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40			
1	広さ・収納性			3.0	0.33				
2	高度情報通信設備対応			3.0	0.33				
3	バリアフリー計画			3.0	0.33				
1.2 心理性・快適性					2.6	0.30			
1	広さ感・景観			3.0	0.33				
2	リフレッシュスペース			4.0	0.33				
3	内装計画			1.0	0.33				
1.3 維持管理					3.5	0.30			
1	維持管理に配慮した設計			4.0	0.50				
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50				
2 耐用性・信頼性					2.8	0.30		2.8	
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50			
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80				
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数					2.8	0.30			
1	躯体材料の耐用年数	R		3.0	0.20				
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.20				
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		3.0	0.10				
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		3.0	0.10				
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		3.0	0.20				
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		3.0	0.20				
2.4 信頼性					2.4	0.20			
1	空調・換気設備			3.0	0.20				
2	給排水・衛生設備			2.0	0.20				
3	電気設備			3.0	0.20				
4	機械・配管支持方法			1.0	0.20				
5	通信・情報設備			3.0	0.20				
3 対応性・更新性					3.9	0.30		3.9	
3.1 空間のゆとり					4.2	0.30			
1	階高のゆとり			5.0	0.60				
2	空間の形状・自由さ			3.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり					5.0	0.30			
3.3 設備の更新性					3.0	0.40			
1	空調配管の更新性			3.0	0.20				
2	給排水管の更新性			3.0	0.20				
3	電気配線の更新性			3.0	0.10				
4	通信配線の更新性			3.0	0.10				
5	設備機器の更新性			3.0	0.20				
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20				
Q3 室外環境(敷地内)					—	0.38	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出				G	W		H		1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G					3.0
3 地域性・アメニティへの配慮									2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H		2.0

LR 建築物の環境負荷低減性										3.2		
LR1 エネルギー						-		0.40		-		3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H	屋根は外断熱とし、事務所の外壁面は吹付断熱材を施工した。		5.0	0.03				5.0	
2 自然エネルギー利用	W		H			3.0	0.12				3.0	
3 設備システムの高効率化	W		H	[BE][BEIm] = 0.75		3.5	0.61				3.5	
4 効率的運用						3.0	0.24				3.0	
集合住宅以外の評価						3.0	1.00					
4.1 モニタリング	W		H			3.0	0.50					
4.2 運用管理体制	W		H			3.0	0.50					
集合住宅の評価												
4.1 モニタリング	W		H									
4.2 運用管理体制	W		H									
LR2 資源・マテリアル						-		0.30		-		3.2
1 水資源保護	W	R				3.4	0.20				3.4	
1.1 節水				節水型便器・自動水栓の設置		4.0	0.40					
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60					
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	0.70					
2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	0.30					
2 非再生性資源の使用量削減						3.3	0.60				3.3	
2.1 材料使用量の削減	W	R				3.0	0.10					
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R				3.0	0.20					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R		-		3.0	0.20					
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R		再生骨材の地業利用		3.0	0.20					
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R				2.0	0.10					
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R		LGS+PBを使用		5.0	0.20					
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.0	0.20				3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	0.30					
3.2 フロン・ハロンの回避						3.0	0.70					
1 消火剤	W					-	-					
2 発泡剤(断熱材等)	W					3.0	0.50					
3 冷媒	W					3.0	0.50					
LR3 数地外環境						-		0.30		-		2.9
1 地球温暖化への配慮	W			LCCO2=86%		3.5	0.33				3.5	
2 地域環境への配慮						2.6	0.33				2.6	
2.1 大気汚染防止						3.0	0.25					
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W	H			2.0	0.50					
2.3 地域インフラへの負荷抑制						3.5	0.25					
1 雨水排水負荷低減			R			3.0	0.25					
2 汚水処理負荷抑制			R			3.0	0.25					
3 交通負荷抑制			R	荷捌きスペースを設け一時待機可能とした。		5.0	0.25					
4 廃棄物処理負荷抑制			R			3.0	0.25					
3 周辺環境への配慮						2.8	0.33				2.8	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40					
1 騒音						3.0	1.00					
2 振動						-	-					
3 悪臭						-	-					
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制						3.0	0.40					
1 風害の抑制						3.0	0.70					
2 砂塵の抑制												
3 日照障害の抑制						3.0	0.30					
3.3 光害の抑制						2.3	0.20					
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						2.0	0.70					
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30					